

関東ふれあいの道を歩く(茨城)①青少年旅行村のあるみち

2021年5月3日 池内淑皓

2021年2月14日埼玉県最後のコースである「⑫グリーンラインに沿ったみち」を歩き終えて、埼玉県内全コースを踏破した。

2021年4月11日関東ふれあいの道は、引き続き群馬県に入るのであるが、体力低下を懸念して群馬、栃木を後回しに、茨城県を先に歩く事とした、横浜から近いからだ。

茨城県コースの第一歩は、栃木県内の真岡鉄道終点茂木駅が最寄り下車駅で、ここから接続地点の飯野バス停までは既に路線バスは廃止されて、公共交通手段では行くことが出来ないなので、タクシーで行く事になる。



関東ふれあいの道一都六県全図 (首都圏自然歩道連絡協議会)



「関東ふれあいの道」茨城県コース図

関東ふれあいの道(茨城)全図

コース名	距離	見所	所要時間(目安)	難易度
① 青少年旅行村のあるみち	13.0 km	清流那珂川、旅行村展望台からの眺望	4時間00分	▲▲
② 杉並木の美しいみち	12.3 km	ケヤキ・杉の美林と皇都川、仏国寺	3時間20分	▲▲
③ 伝説の山と善兵衛がりのみち	6.7 km	徳蔵寺の大師堂、やまびこの里、蕎麦畑	2時間00分	▲▲
④ 焼物とお宿荷さんへのみち	12.6 km	日本三大稲荷の笠間稲荷神社、佐白山と笠間城跡	3時間00分	▲▲
⑤ 自然林を歩くみち	9.8 km	仏頂山のヒメハルゼミ発生地、磯部の桜	3時間00分	▲▲
⑥ 観音様を訪ねるみち	6.4 km	小山寺の三重塔、富谷山頂からの筑波連山の眺め	2時間00分	▲▲
⑦ 御前山から坂東24番札所へのみち	8.2 km	坂東三十三箇所霊場の雨引観音、雨引山	3時間30分	▲▲
⑧ 筑波連山緩走のみち(1)	17.3 km	加波山、真壁の街並と歴史的建造物、足尾山	6時間00分	▲▲
⑨ 筑波連山緩走のみち(2)	21.0 km	葉王院のスタジイ樹叢、東の清水寺・西光院	6時間00分	▲▲
⑩ 筑波山頂めぐりのみち	8.8 km	酒寄みかん園、日本百名山筑波山	2時間30分	▲▲
⑪ 筑波山めぐりから旧参道へのみち	10.0 km	筑波山神社と大御堂、筑波古道、平沢宮古遺跡	3時間00分	▲▲
⑫ 果樹園のみち	8.8 km	北条大池とサクラ並木、葛葉沢のヒメハルゼミ発生地	3時間00分	▲▲
⑬ 果樹の里のみち	7.3 km	観光果樹園、閑居山の百体菩薩像、成沢の山桜	2時間00分	▲▲
⑭ 寺社めぐりと田園風景のみち	16.0 km	清滝寺の朱塗仁王門、日枝神社の流鏝馬祭	4時間30分	▲▲
⑮ 学園都市のみち	13.4 km	筑波学園都市、エクスポセンター、亀城公園	3時間00分	▲▲
⑯ 予科練ゆかりのみち	12.3 km	水郷霞ヶ浦と蓮田、予科練記念館	3時間00分	▲▲
⑰ 水の恵みを知るみち	19.0 km	霞ヶ浦と筑波山の眺め、陸平貝塚公園	5時間00分	▲▲
⑱ 水の恵みと水田地帯のみち	26.5 km	浮島、和田入のアサザ群落、妙鏡の墓、利根川	5時間30分	▲▲

「関東ふれあいの道」(茨城県)全行程図



①青少年旅行村のあるみち 案内図 13km、4時間のコース



横浜を6時に出発する。宇都宮線で小山を經由して水戸線に乗り換え、下館駅には8時半に到着するので更に真岡鉄道に乗り継ぎ、茂木駅まで行く。



下館駅を離れるとすぐ町は遠ざかり、桜並木と菜の花畑に変わる



典型的な赤字路線であるが、沿線住民の強い要望により廃線を免れた



SL も路線存続の一助として活躍している



終点茂木駅には 10 時に到着する。バス路線は既に廃止となり、タクシーが唯一の足だ



20 分程走ると、関東ふれあいの道スタート地点に到着する。タクシーの運転手さんも手慣れたもので、これから歩くコースを指差してくれた(3000 円) “あっちへ行くんだよ！”だって



ここはまだ栃木県であるが、茨城県コース概要と案内図の看板が設置されていた



国道 123 号線と分かれ。茨城県の集落に向かう



20 分程歩けば、里山の小さな峠道が県境であった



茨城に入ると、県道 212 号線が集落と那珂川沿いに走っており、穏やかな丘陵に果樹園が広がる



道案内もしっかり設置されていて、迷うことはない。



たまにはこんな道標もあるが、風情があるので草刈りをしなかった。



ウオークコースは県道を迂回するように指示されているが、目の前の近道に行く。



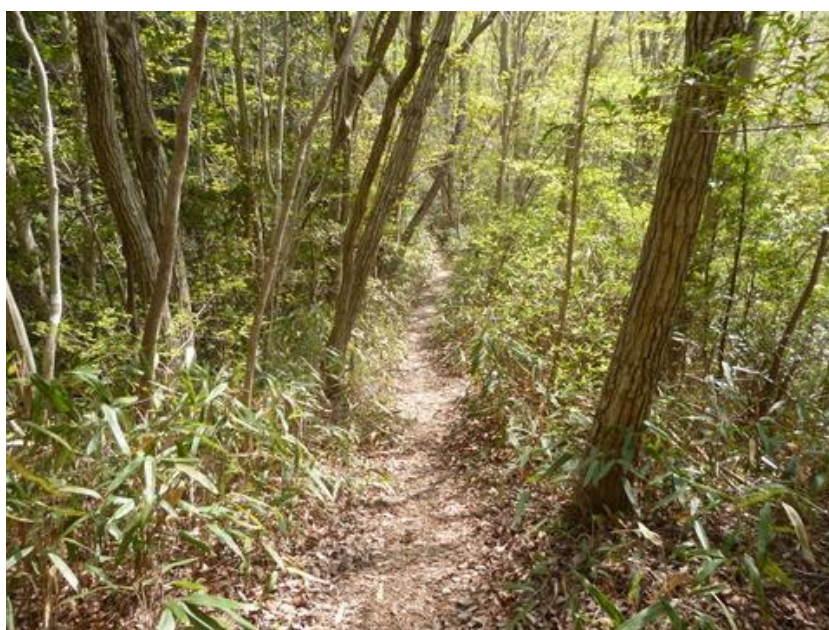
標高 183m程の小高い丘にバンガロー、キャンプ施設があり、茨城県の青少年野外レクリエーションの場となっている。関東ふれあいの道は、この施設を横切って尾根上に出る。



青少年旅行村キャンプ場頂上の展望台から見た常陸大宮市の穀倉地帯



キャンプ場を離れて、ここからは快適な尾根歩きが始まる



けもの道のような痩せた笹尾根もある



時には急な木道を下る所もある



簡単な尾根の小ピークを幾度か越え



関東ふれあいの道に共通した石標が要所に設置されて、誰でも歩けるようになっている



江戸時代には水戸藩の御用林であった御前山一帯は、昔の名残がかすかに残る



「御前山(156m)」見通しの利かない小さなピークである、ベンチもない



御前山から一気に下ると国道 123 号線に出て、ここから水戸駅までバスである。今宵は水戸のホテルに泊まり、明日ここから次のコースを歩き繋げる事にする。

[参考タイム] 旧下飯野バス停(10:30)→県境(10:50)→上伊勢畑集落(11:20-11:40 昼食)→御前山橋(12:15)→青少年旅行村(12:35-12:40)→富士山展望台(12:55-13:05)→御前山(14:35)→御前山バス停(15:15-15:45)→水戸駅(16:50)泊

この項完

「関東ふれあいの道を歩く(茨城)②杉並木の美しいみち」に続く